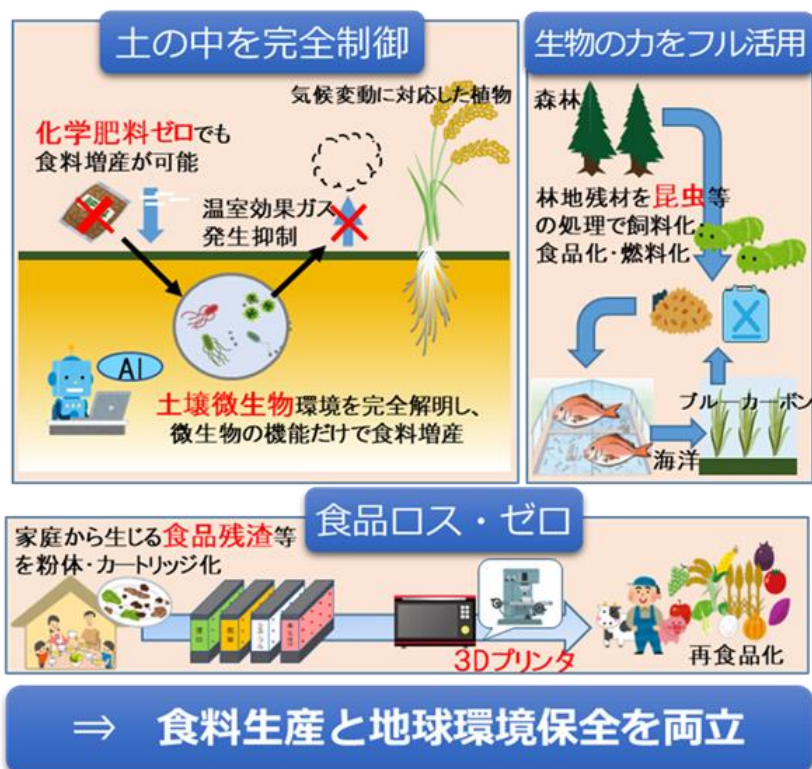


<ムーンショット目標5>

2050年までに、未利用の生物機能等のフル活用により、地球規模でムリ・ムダのない持続的な食料供給産業を創出

<ターゲット>

- 2050年までに、微生物や昆虫等の生物機能をフル活用し、完全資源循環型の食料生産システムを開発する。
- 2050年までに、食料のムダを無くし、健康・環境に配慮した合理的な食料消費を促す解決法を開発する。
- 2030年までに、上記システムのプロトタイプを開発・実証するとともに、倫理的・法的・社会的(ELSI)な議論を並行的に進めることにより、2050年までにグローバルに普及させる。



-----[参考]-----

<関連するエリアとビジョン>

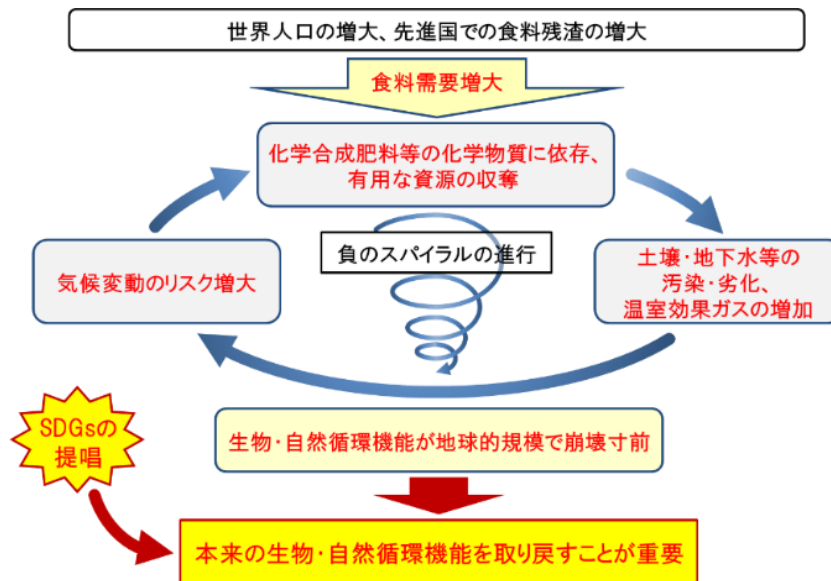
Area : 「地球環境を回復させながら都市文明を発展させる」

Vision : 「資源の完全循環」、「自然との共存」

[参考]

<目標設定の背景>

- ・ 世界的な人口増加により、2050 年には穀物需要量が現行の 1.7 倍にも達すると予想され、食料需給のひっ迫が必至の状況にある。
- ・ 温暖化に伴う異常気象の頻発や、肥料や灌漑用地下水の枯渇等も進行する。
- ・ 食料の元となる有機物は、農作物、食品、排出物、土壌物質等として循環しているが、その循環の破綻が、気候変動、食料供給の持続性への障害等、地球環境に悪影響を及ぼす。
- ・ 有限な鉱物資源を原料とした化学肥料や農薬等の多投は、自然循環に悪影響を及ぼす。
- ・ 今後は、本来の自然や生物機能を最大限に活用した、ムリ・ムダのない社会経済活動を生み出すことが益々重要になる。
- ・ 昆虫、土壌微生物、人体内微生物等にあっては、未利用な機能が多数存在しているものと推測され、これらの機能を活用した新たな社会経済活動のシステム化を図ることが必要である。



<ムーンショットが目指す社会>

- ・ 地球規模でムリのない食料生産システムを構築し、有限な地球資源の循環利用や自然循環的な炭素隔離・貯留を図ることにより、世界的な人口増加に対応するとともに地球環境の保全に貢献する。
- ・ 食品ロスをなくし、ムダのない食料消費社会を実現する。
- ・ 人工的物質に依存しない、地球本来の生物・自然循環が円滑に機能する社会を実現する。